

石川県能登地方七尾方言のゼロ格について

米村雪乃（東京外国語大学大学院生）

1. はじめに

本発表は、石川県能登地方七尾市（図 1）で話されている方言において、格助詞を伴わず文中であらわれる名詞項（以下、「ゼロ格」）についての予察的な発表である。七尾市で話されている方言にも下位分類が存在するが、現段階では七尾市御襖地区で話されている方言を「七尾方言」と呼ぶ。



図 1 七尾市の位置（七尾市ホームページより）

七尾方言は共通語と同様格助詞による格標示を行うこともあるが、主語・目的語は助詞を伴わずに名詞のみで実現されることが多い。本発表では七尾方言の助詞を伴わない名詞項に着目し、1) 自動詞主語 (S)・他動詞主語 (A)・他動詞目的語 (P) の標示のされ方とその区別について（格配列）と、2) 共通語では二で標示される項における七尾方言の二と ϕ の現れ方について述べる。これらを踏まえ、主語、目的語、二格標示され得る項の 3 つの項が ϕ で現れうるが、それぞれの項がどの機能を果たすかが予測可能であることから、主格・対格・与格のほかにゼロ格を立てることを提案する。

2. 先行研究

七尾方言の格体系を詳細に述べた論文は管見のかぎり見つからないが、近隣方言である富山市方言の格に関する記述は小西（2016, 2022）に詳しい。小西（2016）では、富山市方言の格として主格の形式に「 ϕ ・ガ・ア・ナ」、対格の形式に「 ϕ ・オ」、与格の形式に「ニ・ ϕ 」を立てこれら 3 つの格すべてに「 ϕ 」を挙げており、機能面に着目した分類がなされているといえる。富山市方言の格成分のゼロ標示について述べた小西（2022 : 95）では、富山市方言の格配列の解釈の 1 案として、「対格型 (S・A が同一、O が別)」。主格には ϕ 、ガ、対格には ϕ ・オの変異¹があるという解釈のほかに、「中立型 (S・A・O がすべて ϕ)」と対格型 (S・A がガ、O がオ) が併存²するという「中立格」の解釈を提示している。

本発表では、後者の「中立格」（ゼロ格）の解釈を七尾方言に適用する¹。

¹ 角田（2009 : 179）でも、「格は形に関することであることを強調しておく。（中略）又、ゼロ格も格の一種である」と述べられている。

3. 調査の概要

調査は、主に国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」のために作成された格助詞の調査票²を用いた（以下、例文の末尾に「格(ID)」として示している）。このほかに、「基本例文 50 要地方言訳（以下、50 例文）の調査」で収集した例文も参考にしている（以下、例文の末尾に「50 例文(例文番号)」として示している）。50 例文は方言文法研究会の提案する「日本語の基本的な構文、文法形式（助詞・助動詞類）を含む 50 個の共通例文を要地方言に訳出し、概略的な体系を付す」（方言文法研究会 2025：75）調査である。他に発表者が作成した調査票も使用した（例文の末尾に記号のないもの）。以下、断りのない限り、グロス発表者が付した。今回は、以下 3 人（うち 1 人は参考）の調査協力者の方に対して共通語の例文を提示し方言訳してもらった調査を行った。調査は 2025 年 2 月・5 月・6 月・9 月に行っている。

表 1 調査協力者の情報

イニシャル	現在の居住地	生年	年齢	性別
FM	七尾市松本町	1947 年	70 代	男性
KK	七尾市魚町	1949 年	70 代	女性
YM（参考）	金沢市弥生（18 歳まで七尾市、その後金沢市）	1944 年	80 代	女性

4. 七尾方言の格体系

4.1. 概要

七尾方言は、共通語では有形標示（ガ、オ、またはニ）が自然な環境において名詞が助詞を伴わずに用いられる傾向にある。表 2 は共通語での格助詞の分布との対応を示したものである。

表 2 共通語と七尾方言の格助詞の対応

共通語での格助詞	七尾方言での格助詞
ガ	ガ・ア・φ
オ	(オ)・φ
ニ	ニ・φ

4.2. 七尾方言の S、A、P の格標示

4.2.1. 七尾方言における S の標示

七尾方言で S（自動詞の主語）は主格助詞ガ³またはア、もしくはφで示される。ガはやや

² 「下地理則の研究室」<https://www.mshimoji.com/blank-13> にて公開されている（最終閲覧日 2025.9.16）。

³ 主格助詞ガは [ŋa] で実現する。

共通語的な表現で、一般的にはアが接続する。近隣方言である富山市方言の格について記述した先行研究である小西（2016：103）では、「アは単独で音節を成さず、前接名詞句の末尾音により」実現が異なり、/i/ に後接する場合は前接拍と融合して /Cja/、/e, u, o/ に後接する場合は前接拍と1音節を成して /a/ となる」と述べられているが、七尾方言においても同様である⁴。このほかにアが /N/ に後接する場合に「ナ」（アの異形態）が用いられることがある⁵。

【アが接続する例】

- (1) { hanakoa / hanako } mado aketasakai musu haittekita
 hanako = { a / φ } mado ake-ta=sakai musu hair-te=ki-ta
 花子={ NOM / φ } 窓 開ける-PST=CSL 虫 入る-SEQ=来る-PST
 「花子が窓を開けたから虫が入ってきた」 （50 例文(10)一部改変）

【φの例】

- (2) kabeni { tokee / tokeea } kakattoruyo
 kabe=ni tokee = { φ / a } kakar-tor-u=yo
 壁=DAT 時計= { φ / NOM } かかる-PROG-NPST=SFP
 「壁に時計がかかっているよ」 （格(2)一部改変）

φの場合、Sは動詞に隣接している必要はない。

- (3) { tokee / tokeea }⁶ tyanto kabeni kakattoruyo
 tokee = { φ / a } tyanto kabe=ni kakar-tor-u=yo
 時計= { φ / NOM } ちゃんと 壁=DAT かかる-PROG-NPST=SFP
 「時計がちゃんと壁にかかっているよ」 （格(2)一部改変）

4.2.2. 七尾方言におけるAの標示

七尾方言において、A（他動詞文の主語）は、Sと同様、格助詞ガ・ア、もしくはφで示される。S同様、ガで標示される際は共通語的な表現となる。

- (4) { hanako / hanakoa } { gohaN / ?gohaNo } tabeta
 hanako = { φ / a } gohaN = { φ / ?o } taber-ta
 花子 = { φ / NOM } ご飯 = { φ / ? ACC } 食べる-PST
 「花子のご飯を食べた」

4.2.3. 七尾方言におけるPの標示

七尾方言においてP（他動詞文の目的語）は、格助詞のオかφで示される。原則としてφで示され、有形標示オは共通語的な会話以外ではほとんど聞かれず、容認度も低い。

⁴ 前接拍と融合を起こしているためこれが接語であるかの検証が必要であるが、今後の課題とする。

⁵ 富山方言では /N/ に後接しない環境でも稀に「ナ」が用いられる場合がある（アの異形態ナが析出されたもの）が、七尾方言では用いられない。

⁶ 七尾方言では主格・主題ともにφとアを用いるため、形式上区別がなされない。そのため、この場合の tokee { φ/a } は、主題主語である可能性がある。今回は主題に関する考察が十分に行えなかったため、以下の例文でも同様の検討を要する場合がある。

- (5) { *hanako / hanakoa* } { *inu / ?inuo* } *kootoru*
 hanako = { ϕ / a } inu = { ϕ / ?o } kaw-tor-u
 花子 = { ϕ / NOM } 犬 = { ϕ / ? ACC } 飼う -PROG-NPST
 「花子が犬を飼っている」

4.2.4. A と P が格助詞を伴わない場合

先述のとおり、七尾方言では A も P も格助詞を伴わないことがあるため、A と P がどのように区別されているのかが問題となる。調査の結果、A と P の区別には以下のような条件が影響することが判明した。

a. 語順

A は P に先行する。

- (6) { *kaatyaN / kaatyaNna* } *imooto* *tukaini* *yatta*
 kaatyaN = { ϕ / a } imooto tukai=ni yar-ta
 母さん = { ϕ / NOM } 妹 お使い = DAT やる -PST
 「母さんが妹をお使いにやった」 (50 例文(17)一部改変)

imooto kaatyaN tukaini yatta (妹が A、母さんが P と解釈される)

b. 有生性

一般的に、有生性の高い項が A となる。

- (7) { *hanako / hanakoa* } { *gohaN / ?gohaNo* } *tabeta*
 hanako = { ϕ / a } gohaN = { ϕ / ?o } tabe-ta
 花子 = { ϕ / NOM } ご飯 = { ϕ / ?ACC } 食べる -PST
 「花子のご飯を食べた」

この場合、目的語が無生物の文であれば語順を変えることも可能である。

- (8) { *gohaN / ?gohaNo* } { *hanako / hanakoa* } *tabeta*
 gohaN = { ϕ / ?o } hanako = { ϕ / a } tabe-ta
 ご飯 = { ϕ / ?ACC } 花子 = { ϕ / NOM } 食べる -PST
 「ご飯を花子が食べた」

c. 百科事典的知識や文脈

聞き手にとっていずれが A でいずれが P かが明確である場合には、ともにゼロ格で標示することが可能になる。

- (9) ⁷ { *hanako / hanakoa* } { *inu / ?inuo* } *kattoru*
 hanako = { ϕ / a } inu = { ϕ / ?o } kaw-tor-u
 花子 = { ϕ / NOM } 犬 = { ϕ / ?ACC } 飼う -PROG-NPST
 「花子が犬を飼っている」

⁷ ただし、話者からはこの文は「*inu hanako kattoru」とは言いにくい（犬が A、花子が P であるのかと解釈される）というコメントをもらった。これは b. の有生性の条件が関与しているためだと考えられる。

有生性、百科事典的知識・文脈いずれを用いても A か P かの判断が難しい場合には、a.の語順という条件が優先されるが、有標の形式を用いる場合は、一般に A の方を有形標示する。

- (10) { ?inu / inua } { neko / ?nekoo } okkakeru
 inu= { ? φ / a } neko= { φ / ?o } okkake-ru
 犬= { ? φ / NOM } 猫= { φ / ?ACC } 追いかける-NPST
 「犬が猫を追いかける」

ただし、A は P に先行するのが一般的であるため、語順を入れ替えた場合格助詞を用いたとしても文の許容度は下がる。

- (11) ?inu { neko / nekoa } okkakeru
 inu= φ neko= { φ / a } okkake-ru
 犬= φ 猫= { φ / NOM } 追いかける-NPST
 ? 「犬を猫が追いかける」

4.2.5. S、A、P の格標示に関するまとめ

七尾方言では、S・A の標示にガ・ア・φ を用いることができるが、ガは共通語的な発話に多く、一般的にはアかφ が好まれる。P の標示には、オ・φ を用いることができるが、オはほとんど用いられず、基本的にはφ で標示する。

A と P がそれぞれφ で標示される場合は、a.語順、b.有生性、c.百科事典的知識・文脈が考慮され判断される。解釈があいまいになる場合は一般的に A の方をアで有形標示し、P には変わらずφ が用いられる傾向にある。

すなわち、A と P における格助詞を用いた有形標示とφ の組み合わせは、論理的には4通り考えられるが、以下の形式が好まれることになる。

表3 七尾方言の A と P の格標示

容認度	格配列	A	P	備考
○	中立型	φ	φ	両者の区別が明瞭な場合
○	対格型 (有標主格)	ア	φ	両者の区別が困難な場合
?	対格型 (有標対格)	φ	オ	
△	対格型 (有標主格・対格)	ア	オ	共通語的な発話においてのみ○

上記を踏まえ本発表では、七尾方言の格配列は、典型的には「S、A、P がφ の中立型」と「S、A がア (ガ)、P がφ の対格型」であるとみる⁸。A と P がどちらもφ で実現しても、4.2.4 で見たような条件により解釈が揺れることが無いことを踏まえると、格が形式の問題であるという前提に立ち、φ をゼロ格として認め、記述することが可能であると考ええる。

⁸ 小西 (2022) では、富山市方言の格配列は「S、A、P がφ の中立型」と「S、A がガ、P がオの対格型」であると述べているが、これは情報構造まで含めた考察となっている。本発表では七尾方言の情報構造に関する検討が不十分であるため、富山市方言との比較は行えない。これは今後の課題とする。

4.3. 共通語における与格相当の表現

ここからは、共通語における与格相当の表現について述べる。

七尾方言において、相手、時、受身文の動作主、使役対象等を示す際には与格助詞ニを用いる。「時」の用法を除いて、一般にニに先行する名詞は有生性の高いものになる。これは、有生性の高い名詞ほど主語や目的語として解釈されやすいため、それ以外の項を有標で示すことで主語や目的語でないことを明示していると説明できる。

〈相手〉

- (12) *kono hoN { tarooni / *taroo } yakka*
*kono hoN taroo={ ni / *φ } yar-u=ka*
 この 本 太郎={ DAT / *φ } やる-NPST=SFP
 「この本は太郎にやるか」 (50 例文(7)一部改変)

〈時〉

- (13) *oraN { aidani / *aida } nusuttoni hairareta*
*or-aN aida={ ni / *φ } nusutto=ni hair-are-ta*
 いる-NEG.NPST 間={ DAT / *φ } 泥棒=DAT 入る-PASS-PST
 「いない間に泥棒に入られた」 (50 例文(19)一部改変)

共通語で格助詞ニを伴う用法のうち、七尾方言においては、時間・相手・受動文の動作主・使役文の動作主（グループ A）の用法ではニを必須とし、着点・存在場所（グループ B）はニに加え条件付きでφが許容され、変化結果・目的（グループ C）ではニとφの両方が現れる。形式面でいえば、共通語では与格としてまとめられるグループ A～C は七尾方言においては、φと与格という異なる格標示を行うといえる。

表 4 共通語におけるニの用法と七尾方言での格標示の対応

グループ	用法	共通語	七尾方言
A	時間 相手 受動文の動作主 使役対象	ニ	ニ
B	着点 存在場所	ニ	{ニ / φ}※
C	変化結果 目的	ニ	{φ / ニ}

※φは条件あり

以下は、B グループの用法におけるφの例である。B グループにおいては、格助詞ニが付与されることも多い。

〈着点〉

- (14) taroo kiNno { ie / ieni } modotta
 taroo kiNno ie = { ϕ / ni } modor-ta
 太郎 昨日 家 = { ϕ / DAT } 戻る-PST

「太郎は昨日家に戻った」(格(10))

〈存在場所〉

- (15) taroo zutto { tookyoo / tookyooni } oru
 taroo zutto tookyoo = { ϕ / ni } or-u
 太郎 ずっと 東京 = { ϕ / DAT } いる-NPST

「太郎はずっと東京にいる」(格(6))

以下は、C グループの例である。C グループは、格助詞ニを付与することも可能だが、通常はϕで示す。

〈変化結果〉

- (16) yoru { zyuuzi / zyuuzini } nattara hayo nemassi
 yoru zyuuzi = { ϕ / ni } nar-tara hayo ne-massi
 夜 10 時 = { ϕ / DAT } なる-COND 早く 寝る-IMP

「夜は 10 時になったら早く寝なさい」(50 例文(5)一部改変)

〈目的〉⁹

- (17) tarooto ootooto { asobi / asobini } itta
 taroo=to ootooto asobi = { ϕ / ni } ik-ta
 太郎=ASC 弟 遊び = { ϕ / DAT } 行く-PST

「太郎と弟が遊びに行った」(格 (41))

5. まとめと今後の課題

本発表では、七尾方言の格体系を概観し、ゼロ格(ϕ)を認める記述が可能かどうかを検証した。本発表で挙げた七尾方言における格体系をまとめると以下のようになる。

表 5 七尾方言における格

七尾方言における格	機能
主格 (ア・ガ)	自動詞文の主語／他動詞文の主語
対格 (オ)	他動詞文の目的語／経路
与格 (ニ)	時間／相手／受動文の動作主／使役文の対象／着点／存在場所
ゼロ格 (ϕ)	自動詞文の主語／他動詞文の主語／他動詞文の目的語／経路／変化結果／目的／着点／存在場所

⁹ 小西 (2016 : 107) で富山市方言では〈目的〉を表す名詞句はϕをとれる一方で、動詞 -(i) 形は不可となっているが、七尾方言では可能である。富山市方言同様、名詞もゼロ格を許容する (例：「仕事行く」)。

S、A、P の分布はここまでのところ条件立てて説明することが可能であることから、ゼロ格を立てる記述が可能であると考え。ただしいわゆる与格相当の名詞項についての検証は不十分であることから、今後の課題としては語順、有生性、百科事典的知識・文脈に加えどのような要素がゼロ格の機能を決めうるのか、より詳細な調査が求められる。これは、多くの言語で格標示が必須とされている中で、七尾方言に関してはゼロ格で標示ができる理由を明らかにすることにつながる¹⁰。

加えて、より複雑な文における格標示が課題となる。項の多い文や複文はもちろん、小西 (2022) が富山市方言で指摘した二重対格構文についても検討が必要である。二重対格構文は、七尾方言においても存在する。

- (18) *kuruma* *moN* *toosaNni* *doddake* *zikaN* *kakattoraN*
kuruma= ϕ moN= ϕ toos-u=ga=ni *doddake* *zikaN* kakar-tor-u=gaN
 車= ϕ 門= ϕ 通す-NPST=NLZ=DAT どれだけ 時間 かかる-PROG-NPST=Q
 「??車を門を通すのに、どれだけ時間がかかっているの。」(小西 2016 より改変)

小西 (2022) では、富山市方言においては「車」と「門」を対格とみることも、ゼロ格 (小西 2022 でいう中立格) の連続とみることも可能であると指摘しているが、七尾方言でいずれの解釈が適当かについては検討の余地がある。七尾方言における格体系を整理するにあたって、ゼロ格を立てることの意義をさらに明確にしていく必要がある。

【略号リスト】

ACC: accusative (対格) / ASC: associative (共格) / COND: conditional (条件) / CSL: causal (理由) / DAT: dative (与格) / IMP: imperative (命令) / NLZ: nominalizer (名詞化) / NOM: nominative (主格) / NPST: non-past (非過去) / PASS: passive (受動) / PROG: progressive (継続相) / PST: past (過去) / Q: question (疑問) / SEQ: sequential (中止形) / SFP: sentence final particle (終助詞) / -接辞境界 / =接語境界

【参考文献】

- 小西いずみ (2016) 『富山県方言の文法』 東京: ひつじ書房。
 ————— (2022) 「富山市方言における格成分のゼロ標示 二重対格相当構文が可能になることに着目して」『日本語の格表現』 91-108. 東京: くろしお出版。
 竹内史郎・松丸真大 (2022) 「本州方言における他動詞文の主語と目的語の区別について—京都市方言と宮城県登米町方言の分析—」『日本語の格表現』 65-90. 東京: くろしお出版。
 角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語 改訂版』 東京: くろしお出版。
 七尾市ホームページ (2013) 「七尾市の概要」
<https://www.city.nanao.lg.jp/koho/aramashi/profile/gaiyo.html> [2025 年 5 月 24 日アクセス].
 方言文法研究会 (2025) 「凡例」『全国方言文法辞典資料集 (9) 活用体系 (7)』 75-82.

¹⁰ 竹内・松丸 (2022) では、京都市方言における格の識別に関する記述がなされている。京都市方言では ASP とともにゼロ格で標示されることが多いが、語順・有生性・格標示のほか言語論的に文脈から判断しているという説が提案されており、七尾方言でも同様の説をとれる可能性が高い。